

「光圈の好奇心」

少女は頬に落ちかかる豊かな黒髪を耳にかけながら、物憂げにため息をついた。

「何故こんな時に限って……」

右手に握られた赤ペンがミシリと音をたてる。その勢いのまま、日焼けした畳の上に広げた新聞を破かんばかりの勢いで、バンバン叩いて八つ当たりする。

「あらあら、光圈様……どうなさったんです？」

少女——の姿をした、水戸光圈[みと・みつくに]の元へ、光圈の居候先である猟幽会の事務員の榎田忍[えのきだ・しのぶ]がお茶とお菓子を持って現れた。

「忍殿！ 聞いてくれよー！！」



榎田から差し出された濃い番茶をすすり、なんとか平常心を取り戻す。

「どうしたも、こうしたもないよ……あたしの大好きな番組がかぶってやがんだよ！」

さきほど見ていた新聞を榎田に突き出す。

「ほら、ここだよ！ 20時からの“8代目は暴れん坊～大典に隠された埋蔵金～スペシャル”と21時からの“平原の7人～花のお江戸は火事と喧嘩ばかり～”の2つ！」

また興奮がぶり返してきた光圈は、ベシベシと赤ペンで紙面を叩く。

「あら、まあ……困りましたわね」

たいして感銘を受けた風でもなく、榎田はさらりとかわす。「どっちも録画しときたいし、どっちもリアルタイムで見たいんだよ～！」

娘盛りの美少女が時代劇について、真剣に身悶える姿は……残念なような、微笑ましいような……。

「仕方ないですねえ。うち(猟幽会)の支部にあるテレビは1台だけで、2番組同時録画もできませんし。最近は《^{ノーライフ}雑霊》もよく邪魔してきますもの」

光圈は整った眉を寄せ、やれやれと首を振りながら芋羊羹を口に運ぶ。

「流れてきた情報によると、《^{ノーライフ}雑霊》だけじゃなく

《^{タイラント}災主》や《^{ルーインド}奸徒》の動きも活発化しそうだとかで、忙しくなりそうですわ」

今度は陰しく眉を寄せて、芋羊羹を刺していた爪楊枝に歯を立てる。

「それだよ！ この国を荒らすなんてふざけたマネするなんて……血迷った話じゃあないかい！？」

怒りのやり場をちゃぶ台に叩きつける。

「迷ってるって言えば……迷ってるんですけどね」

わずかばかりにこぼれた番茶を拭きながら、榎田も困ったように眉をよせる。

「うち(猟幽会)の支部は設備が抜群に整ってるわけでもなく、特別に大きな権限があるわけでもありませんしね……テレビもここにある1台だけですし」

西日の入る畳張りの6畳間は、猟幽会職員の休憩所兼食堂兼娛樂室兼仮眠室。設備の小ささに泣けてくる。

「そーいやあさ、正宗殿が武器を造りに出るらしいじゃないか。何かアテはあんのかい？」

どこか落ち着かない目で榎田の顔色をうかがい見る光圈。

「まだ未確認ですが、四国の辺りに玉鋼の材料になるような物が出たとか、出ないとか……。光圈様は何かご存知ありませんか？」

光圈は無言で首を振る。

「ドラマじゃ諸国漫遊してるみたいだけどさ、あたしが出歩いたなんて地元か江戸くらいなもので、窮屈な暮らしてもんよ。そりゃあ、地元じゃそれなりに遊びはしたけどね」

「んもう！ どこの不良ですか……あ、そろそろ時間ですわよ」

手垢のついたリモコンでテレビのスイッチを入れる。光圈がモデルになったドラマの再放送の時間だ。

「DVDもいいけど、このコマーシャルが入るじらしっぷりがいいねえ！」

先程までの不機嫌もどこかに吹っ飛ばして、きちんとテレビに向き直る。

「いいなあ……あたしにもお付きの2人組とか、お風呂好きなクノイチとか、風車投げしてくれる忍者とかいたらなあ」

画面を見つめながら、光圈は誰ともなくつぶやいた。——その時、画面がグニャリと歪んだ。

「うらめしい……う～ら～めしい～……なんだか分からないけどうらめしい～～～」

すでにテレビには水戸のご老公の姿も映らず、モヤモヤしたガイコツが映り、変なエコーのかかった声しかなくなった。

「あら……^{ノーライフ}《雑霊》ですわね。こんなに濃く出てきてるなら再開まで時間がかかりそうですわ」

ふと、横の光圈を見る。

「あらあら！ まあまあ！」

拳をかたく握り、光圈はすくと立ち上がった。

「あたしや正宗殿と一緒に旅に出るよっ！ 堪忍袋の緒も限界さね！！」

古く軋む床を踏み鳴らしながら、光圈は獺幽会の支部長(の、ような存在の)鳥谷進次郎[とりたに・しんじろう]の元へ向かった。

「背中を押したのは時代劇を邪魔された怒りなのかしら？ それとも……………」

《^{ノーライフ}雑霊》がうめき続けるテレビを消して、榎田も立ち上がる。

「どちらにせよ、有事に立ち上がるお姿ってのは、男女問わず素敵ですわね♪」



深夜、書庫のすみで何やら細工をしている男の姿があった。

「正宗さん、どうしたんですか？」

鍛えられた筋肉の背中に、鳥谷が声をかける。そこには刃物を手にした、刀鍛冶・初代正宗[まさむね]がいた。

「みっちゃん(光圈)も一緒に旅するってゆーからさ、ちょっとソレっぽい物を作ったげようと思ってね。いいでしょ〜」

イタズラっぽく笑う正宗の手には、ドラマのご老公が持つような杖が握られていた。

「これは……足場の悪い所でも安心そうですわね」

のんびりとした笑顔を見せる鳥谷に、正宗が別の意味の笑顔を向ける。

「分かってるんだか、分かってないんだか……ま、できるなら楽しい旅にしたいもんよね」

■マスターより

初めまして。もしくはご無沙汰しております。

はなみずき頼です。

今回もマスターとして参加させていただく事になりました。

このシナリオのメイン・キーワードは「刀」です。

興味のある方はどしどしご参加くださいませ。

四国の旨いもの情報や、名物情報なんかがあると光圈が喜

びます。

■シナリオの目安

危険度：★★★

対応人数：★★★

キーワード：「日本刀」「ドタバタ」「判定：ゆるめ」

■関連選択肢

A012300

「正宗たちと刀造りの旅に出る」

※備考：刀を造るために情報や材料を集めたり、光圈と美味しい物を食べたりします。

個人としてゲームを楽しむための交流の範囲を越えない場合に限り、この「初期情報」の複製、サイトへの転載を許可します。著作権等の扱いについては、公式サイト(<http://else-mailgame.com/gddd/>)を参照ください。

copyright 2012-2013 ELSEWARE, Ltd.
